

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04211

研究課題名(和文) 教育思想家像の国際比較

研究課題名(英文) International Comparison of the Images of Educational Thinkers

研究代表者

上原 秀一 (UEHARA, Shuichi)

宇都宮大学・教育学部・准教授

研究者番号：70515965

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、西洋近現代の代表的な教育思想家に対する理解の在り方、すなわち教育思想家像を国際比較するものである。ロック、ルソー、ヘルバルト、デューイ、モンテッソーリ、ウイトゲンシュタイン、フロイト、ハーバーマスの計8名の広義の教育思想家を選び、その思想がアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、中国の計5か国の教育界において今日どのように理解されているのかを我が国と比較した。

研究成果の概要(英文)：We compared how educational thoughts are discussed in USA, UK, France, Germany and China by considering the acceptances of educational thinkers such as John Locke, Jean-Jacques Rousseau, Johann Friedrich Herbart, John Dewey, Maria Montessori, Ludwig Wittgenstein, Sigmund Freud, and Jurgen Habermas.

研究分野：教育学

キーワード：教育思想家像 国際比較 教育思想史 比較教育学

1. 研究開始当初の背景

(1) 当研究グループは、研究開始当初、教育思想史研究において「教育思想家像」と「国際比較」への関心を示す先行研究をレビューすることによって、本研究を次のように国内・国外の研究動向の中に位置付けた。

(2) 教育的思惟の歴史的構造を解明しようとする教育思想史研究において、過去の教育思想家の思想構造の解明が研究の本体であるのは言うまでもない。しかし他方、思想の受け手の側の論理に着目し、そこからオリジナルの思想に含まれる構造を逆照射する作業にも相当な意義がある。例えば、最近では、ルソー教育思想の研究者である坂倉裕治が、「日本の近代化と『エミール』 三浦關造の抄訳を中心に」(『思想』第1027号、2009年)において、我が国の近代初期において『エミール』がどのように読まれていたのかを解明している。このような思想受容の研究は、さらに教員養成の場における思想理解の在り方にまで広げて考察することもできるだろう。林泰成らの研究グループによる「教員養成課程における教育哲学の位置づけに関する再検討」(教育哲学会特定課題研究)は、教育哲学と教員養成の関係に着目した研究であり、本研究にも示唆を与えている。本研究は、こうした研究動向を踏まえ、思想の受け手からみた「教育思想家像」を、学術研究の世界における先端的理解のみならず、教員養成や社会一般における通俗的理解をも含めて検討することをねらいとしている。

(3) 思想の受け手の側から見た「教育思想家像」をとらえようとするとき、国際比較の手法が特に有効である。思想家のオリジナルの思想と外国において受容された思想とを比較したり、外国同士で思想の受容の在り方を比較したりするのである。研究代表者らは、かつて、パーカストのドルトン・プランの受容を日本と中国で比較したことがある(原聡介・上原秀一・日暮トモ子「日本と中国におけるドルトン・プランの移入と展開」(『目白大学人間社会学部紀要』第2号、2002年)。そこでは、ドルトン・プランを中国は「協働」原理を中心に、日本は「自由」原理を中心に受容したという対比を行うことができた。外国への関心は、近年、フランスの教育哲学者の間でも示されるようになってきている。Anne Marie Drouin-Hans らによる研究書『教育哲学 - アメリカの思考様式』(Philosophie de l'éducation : Itinéraires américains, L'Harmattan, 2012)は、フランス語圏教育哲学会(SOPPHIED)における共同研究の成果である。そこでの問題関心は、アメリカの先進性をフランスに取り入れようというのではなく、仏米比較によって両国の教育哲学の独自性と両国に共通する教育哲学の普遍性を示そうとする点にある。我が国においても、これと同様、長年にわたって行われてきた外国思

想の輸入のための思想研究とは異なった課題意識が共有されるようになりつつある。本研究は、こうした研究動向から示唆を得て、さらに国際比較の対象を複数国に広げることによって比較の作業を多元化しようとするものである。これによって、教育思想家像をより効果的に把握することが期待できる。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、西洋近現代の代表的な教育思想家に対する理解の在り方、すなわち教育思想家像を国際比較するものである。ロック、ルソー、ヘルバルト、デューイ、モンテッソーリ、ウイトゲンシュタイン、フロイト、ハーバースの計8名の広義の教育思想家を選び、その思想がアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、中国の計5か国の教育界において今日どのように理解されているのかを我が国と比較する。

(2) 教育哲学・教育思想史の専門書における先端的な思想理解と、教員養成向けの書籍・事典類や教員採用試験の内容などにおける通俗的な思想理解とを共に調査の対象とする。この調査により、各教育思想家の思想の原型とその受容の在り方との間の異同を多角的に把握し、近代教育思想の構造の解明に資する新たな知見を得ようとする。

3. 研究の方法

(1) 本研究の具体的な目的は、西洋近現代の代表的な教育思想家に対する理解の在り方、すなわち教育思想家像を国際比較することである。そのために、時代別・国別に研究班を組織し、研究代表者・研究分担者・研究協力者それぞれについて明確な役割分担を行い、効果的かつ効率的に研究を推進するとともに、最終的にはそれらを総合する研究体制をとることとした。

(2) 時代別班編制は、「17・18世紀班」、「19世紀班」、「20世紀班」、「現代思想班」によって行った。国別班編制は、「アメリカ班」、「イギリス班」、「フランス班」、「ドイツ班」、「中国班」によって行った。

(3) 平成27年度から平成29年度までの3年間の計画で、文献調査と現地調査を行った。研究班ごとの打合せを随時行うほか、年2回、全体の研究打合せを開催し、調査結果の共有と総合化を図ることとした。最終的には、学会大会での口頭発表と学会誌への論文投稿を行い、さらに最終報告書を作成・配布することとした。

4. 研究成果

(1) 間篠剛留、上原秀一、原圭寛「教員養成における教育思想家像の比較 フランス、アメリカ、イギリスの教員養成教材から」(雑誌論文、学会発表)では、フラ

ンス、アメリカ、イギリスの教員養成用教材に基づき、これら3か国における教育思想家像を比較し、次の事実を明らかにした。すなわち、フランスの教員採用試験における口述試験では、教育学的な知識（教育哲学や学習過程への心理学的・社会学的接近）に自らの知識と省察とを関連付けることが求められており、教員志望者は単なる一問一答式以上の知識を身につけておく必要がある。そのため、フランスの教員養成テキストには、ロックやルソー、デューイといった教育思想家の思想が簡潔にまとめられている。これに対してアメリカとイギリスのテキストでは、ルソーやデューイは登場するものの、他の思想家が扱われる機会は少ない。アメリカとイギリスでは、教員になるために教育思想を学ぶことは求められていない。そのため、現在の教育に関する議論を軸にトピック・ベースで編纂されているテキストにおいては、現状の議論に直結しないような教育思想家は登場しづらいと考えられる。

(2) 藤井佳世、上野正道「教育思想家像の国際比較 教職の専門性と教員養成課程の改革」(雑誌論文)では、西洋近代の教育思想家が各国の大学の教育学の授業の中でどのように受容され教えられているのかを明らかにした。グローバル化社会や知識基盤社会の到来とともに、日本では教職の専門性の議論が高まり、大学の教員養成課程の大規模な改革が推進されている。「アクティブ・ラーニング」や「社会に開かれた教育課程」、「コミュニティ・スクール」などの導入と並んで、「学び続ける教員像」や「学びの専門家」としての教師像が提唱されている。同論文では、ロック、ルソー、ヘルバルト、デューイ、モンテッソーリ、ヴィトゲンシュタイン、フロイト、ハーバーマスの教育思想が、ドイツ、イタリア、スペイン、中国の大学の教育学や教員養成課程を担う教員によってどのように取り上げられているかについて、アンケートによる具体的な事例をもとに比較し考察した。

(3) 上記2本の共著論文のほか、次の発表論文等において、教育思想家像の国際比較に関する研究成果を公表した。

- ・鴨川明子、日暮トモ子他「アジアの教員養成制度の特質」(雑誌論文、学会発表)
- ・相馬伸一、小山裕樹他「教員採用試験における教職教養分野の特質と課題」(雑誌論文)
- ・相馬伸一、日暮トモ子他「教育思想史の誕生」(雑誌論文)
- ・相馬伸一、岸本智典他「教育思想史の誕生(2)」(学会発表)
- ・日暮トモ子「日本の教員養成における教育思想史の位置づけの検討」(学会発表)

(4) 研究対象である教育思想家の思想構造

の解明に資する研究成果として、次の発表論文等を公表した。

- ・岸本智典「W. ジェイムズ教育論における「注意の持続」の意味」(雑誌論文)
- ・小山裕樹「ヘルバルトにおける「教育可能性」概念の再検討」(学会発表)
- ・Masamichi Ueno, Translating Democracy in the Education System Context: Encounter with Dewey's Theory in Japan (学会発表)
- ・渡邊福太郎『ウィトゲンシュタインの教育学』(図書)
- ・Masamichi Ueno, Democratic Education and the Public Sphere: Towards John Dewey's Theory of Aesthetic Experience (図書)

これらは、ヘルバルト、デューイ、ヴィトゲンシュタインについての、特に顕著な研究成果である。このほかにも、上記3人以外の教育思想家について、思想構造の解明に向けた作業を進め、成果の一部を、次に示す一般向け図書において公にした。

(5) 本研究の成果は、次の一般向け図書にも活かされている。すなわち、真壁宏幹編『西洋教育思想史』(図書)には、上野正道「デューイの教育思想」、小山裕樹「ヘルバルト教育学」、岸本智典「アメリカ「児童研究」から発達心理学へ」、渡邊福太郎「加速する近代化と教育思想・教育学」の各節が掲載されている。また、次の各図書では、本研究の成果に基づいて、教員養成に関する新たな知見を示し、あるいは新しい観点で解説した教育哲学・教育史のテキストを提供している。

- ・フランス教育学会編『現代フランスの教育改革』(図書)
- ・猿田祐嗣編『諸外国の教員養成における教員の資質・能力スタンダード』(図書)
- ・古屋恵太他『教育の哲学・歴史』(図書)
- ・下司晶他編『教員養成を問いなおす』(図書)

5. 主な発表論文等

(雑誌論文)(計23件)

間篠 剛留、上原 秀一、原 圭寛、教員養成における教育思想家像の比較 フランス、アメリカ、イギリスの教員養成教材から、大阪成蹊大学紀要、査読無、第4号、2018、pp.157-166

藤井 佳世、上野 正道、教育思想家像の国際比較 教職の専門性と教員養成課程の改革、東アジア教育研究、査読有、第5号、2018、pp.1-12

鴨川 明子、日暮 トモ子、鈴木 賀映子、アジアの教員養成制度の特質 マレーシア、中国、日本を事例として、山梨大学教育学部紀要、査読無、第27号、2018、pp.199-217

相馬 伸一、室井 麗子、椋木 香子、小山裕樹、生澤 繁樹、教員採用試験における教職教養分野の特質と課題 教育思想

史分野を中心に、広島修大論集、査読無、第58巻第2号(通巻112号)2018、pp.117-159

相馬 伸一、下司 晶、鈴木 宏、日暮 上モ子、尾崎 博美、塩見 剛一、コロキウム 教育思想史 の誕生 日本とドイツ、近代教育フォーラム、査読無、第26号、2017、pp.107-113

岸本 智典、W.ジェイムズ教育論における「注意の持続」の意味、日本デューイ学会紀要、査読有、第58号、2017、pp.1-10

〔学会発表〕(計16件)

上原 秀一、原 圭寛、間篠 剛留、教員養成における教育思想家像の比較 アメリカ、イギリス、フランスの教員養成教材から、日本比較教育学会第53回大会、2017

鴨川 明子、日暮 上モ子、鈴木 賀映子、マレーシア、中国、日本における教員研修の特質、日本比較教育学会第53回大会、2017

相馬 伸一、下司 晶、椋木 香子、高宮 正貴、岸本 智典、真壁 宏幹、コロキウム2：教育思想史 の誕生(2) ペスタロッチと英米教育思想史、教育思想史学会第27回大会、2017

小山 裕樹、ヘルバルトにおける「陶冶可能性」概念の再検討 「完全性」概念との関わりから、日本ディルタイ協会関西大会、2017

Masamichi Ueno, Translating Democracy in the Education System Context: Encounter with Dewey's Theory in Japan, The 15th Biennial World-Conference of the International Network of Philosophers of Education, 2016

日暮 上モ子、日本の教員養成における教育思想史の位置づけの検討 明治期師範学校のカリキュラムと教科書を手がかりに、教育思想史学会第26回大会、2016

〔図書〕(計17件)

フランス教育学会 編(上原 秀一 他)、明石書店、現代フランスの教育改革、2018、362

猿田 祐嗣 編(上原 秀一 他)、国立宇教育政策研究所、諸外国の教員養成における教員の資質・能力スタンダード、2018、101

渡邊 福太郎、慶応義塾大学出版会、ウィトゲンシュタインの教育学 後期哲学と「言語の限界」、2017、250

古屋 恵太、小山 裕樹、村松 灯、間篠 剛留、米津 美香、山田 真由美、原 圭寛、矢田 訓子、学文社、教育の哲学・歴史、2017、197

真壁 宏幹 編(上野 正道、小山 裕樹、岸本 智典、渡邊 福太郎 他)、慶応義塾

大学出版会、西洋教育思想史、2016、688
Masamichi Ueno, Routledge Taylor & Francis, Democratic Education and the Public Sphere: Towards John Dewey's Theory of Aesthetic Experience, 2015, 182

下司 晶、須川 公央、関根 宏朗 編、東洋館出版社、教員養成を問いなおす 制度・実践・思想、2015、255

6. 研究組織

(1)研究代表者

上原 秀一 (UEHARA, Shuichi)
宇都宮大学・教育学部・准教授
研究者番号：70515965

(2)研究分担者

上野 正道 (UENO, Masamichi)
大東文化大学・文学部・教授
研究者番号：50421277

小山 裕樹 (OYAMA, Yuki)
摂南大学・外国語学部・講師
研究者番号：60755445

岸本 智典 (KISHIMOTO, Tomonori)
作新学院大学女子短期大学部・幼児教育科・講師
研究者番号：50757713

関根 宏朗 (SEKINE, Hiroaki)
明治大学・文学部・専任准教授
研究者番号：50624384

日暮 上モ子 (HIGURASHI, Tomoko)
有明教育芸術短期大学・子ども教育学科・教授(移行)
研究者番号：70564904

藤井 佳世 (FUJII, Kayo)
横浜国立大学・教育学部・准教授
研究者番号：50454153

間篠 剛留 (MASHINO, Takeru)
大阪成蹊大学・マネジメント学部・講師
研究者番号：90756595

渡邊 福太郎 (WATANABE, Fukutaro)
慶応義塾大学・文学部(三田)・助教
研究者番号：80634047

原 圭寛 (HARA, Yoshihiro)
弘前学院大学・文学部・講師
研究者番号：30779880

(3)研究協力者

展 偉静 (TEN, Isei)